イエローサブマリン
スラムの国のアリス

貞方祥
ver.1.000

登場人物

いそがしラビット

アリス

ハンプティ

ダンプティ

キング

クイーン

ドードー教授

ドジソン博士

ストロングキャッツ
マイケルキャッツ
クレイジーキャッツ
ワイルドキャッツ

○プロローグ

オープニング映像。

スクリーンがロールアップすると、下手側にイヌ派のドードーとハンプティ、ダンプティ。上手側にドジソンと、ストロング率いるネコ派監視隊が立っている。

時計の音が聞こえてきてラビット登場。

ラビット「皆様、お初にお目にかかります。私、このお話の案内役、いそがしラビット関根と申します。

以後どうぞお見知りおきを。さて、いきなり始まりましたこのお話、時は西暦2309年、戦乱の世でございます。戦の発端は、このドジソン博士の著しました『楽しい世界の歴史事典』をひもときますところ、今からさかのぼること300年前、お勤め帰りに野良犬を蹴っ飛ばしたネコ好きの酔っぱらいサラリーマンと、それを見ていたイヌ好きのOLとのケンカが、世界中のイヌ派とネコ派との間に大論争を巻き起こし、ついには世界大戦にまで発展したと記されております。勝利をおさめたネコ派は新国家を設立。一方、敗北したイヌ派の人々は、地下のスラム街で貧しい暮らしを強いられているのであります。事実上、敗戦宣言をしたイヌ派ではありますが、地上を奪い返さんとする彼らは、各地にレジスタンスを結成。しかし、度重なる内戦においてもイヌ派の形勢は逆転せず、もはやイヌ派のレジスタンスは風前のともしび。でもここに、今なお、ネコ派に戦い挑む若き戦士たちがいるのです。（首にかけている時計をみて）おっと、もうこんな時間。それではお待たせ致しました。イエローサブマリンス

ラムの国のアリス、開演です」

ファンファーレが高らかに響く。
暗転。

○地下スラム街

遠くに聞こえる爆発音や銃声。

焚き火にあたりながら休息をとっているイヌ派の戦士ハンプティとダンプティ。

ハンプティ 「痛むか？」

ダンプティ 「大丈夫だ」

再び遠くで爆発音。

ダンプティ 「どこだ？」

ハンプティ 「エリアB36あたりかな」

ダンプティ 「ということは」

ハンプティ 「あの辺りも全滅だろうね」

ダンプティ「政府が敗戦宣言をして早20年。俺たちレジスタンスの抵抗もはやこれまでか。負け犬とはよく言ったもんだ」

ハンプティ「僕は諦めないよ。絶対に地上を取り戻してみせる」

ダンプティ「地上か……行ってみてえな」

物音が聞こえ、銃を構えるふたり。

傷だらけの少女が立っている。

ハンプティ「だっ、誰だ！」

ダンプティ「動くよ撃つ」

ハンプティ「お前、ネコ派か？」

首を振る少女。

ダンプティ「顔を見せろ」

フードを取る少女。

ダンプティ「……アリスか？」

ハンプティ「えっ？」

ダンプティ「お前、アリスか？」

驚き、そしてうなづく少女。

ハンプティ「アリスだあ。アリスが帰ってきたんだ」

ダンプティ「爺ちゃん、大変だぁー！ー！ー！」

ドードー「どうしたダンプティ。大声出しおって。せつかく引越したばかりのアジトをネコ派のやつらに見つけられたらどうする」

アリス「爺ちゃん？」

ドードー「おお、アリス、無事じゃったか」

アリス「爺ちゃん！」

ドードー「全員が音信不通になって5年、いったいどうしておったのじゃ？ 他のみんなはどうした？」

アリス「私達ブルードルフィンは激戦の末、どうにか地上への出口、エリアA1までたどり着いた。でも、百名余りいた仲間も、その時には数にして20名ばかり」

ドードー「なんとということだ」

アリス「しかし、父さんは、いや、リーダーは、ここまで来るのに死んでいった仲間達の為にも引き返す

わけにはいかないと地上へ」

ドードー「無茶なことをしおって。イエローサブマリンの時代は終わったというのにのう」

アリス「爺ちゃん、父さんは言ってた。いつの日か、必ずイエローサブマリン復活の時が来ると」

ダンプティ「なあ、アリス。みんなは？ お前の父さんたちはどうした？」

アリス、首にかけた羅針盤のネックレスをドードーに見せる。

ドードー「……そうか。あいつは死んだか」

アリス「みんなも殺された。でも、私だけは収容所へ入れられた」

ハンプティ「どうしてアリスだけ？」

アリス「わからない」

ドードー「ネコ派の収容所は嚴重な監視と聞くが、よく逃げてこられたのう」

アリス「ネコ派にも平和を愛する人がいる。その人に助けてもらった」

ドードー「つらい思いをしたろう。まあとにかくゆつくりと休め。おお、そうじゃ、アリス、こいつらの

ことを覚えているか？ ハンプティとダンプティじゃよ」

アリス「えっ、泣き虫ハンプと強がりダンプ？ 全然わからなかった」

ハンプティ「そりやそうだね。いくら幼なじみとはいえ、こんなにカツコよくなったらアリスもわかん

ないよなあ」

ダンプティ「まあ、カツコよくなったのは俺だけだな」

ドードー「さあ、アリス行こう」

歩き出すドードーとハンプティ。

ダンプティ「アリス」

アリス「何？」

ダンプティ「無事で良かった」

アリス「うん」

暗転

○ドジソン研究室

ドジソン 「私の研究結果に間違いなければ、もうすぐ時が来る。なんとしても元に戻さなければ……」

部屋に入ってくるストロング。

ストロング 「ストロングキャッツ犬飼、入ります。呼びでしようか？ 我らネコ派帝国の総統ドジソン

博士」

ドジソン 「収容所の様子はどうか？」

ストロング 「はい、この私、赤の女王ことストロングキャッツ率いる収容所監視隊がいる限り、全て万全でございます」

ドジソン 「それは頼もしい。と、言いたいところだが、私のもとには捕虜がひとり、脱獄したとの情報が入ってきてるのだが」

ストロング 「脱獄ですと。ご冗談を。そのようなことは断じてございません」

ドジソン 「では、私の情報が間違っているとでも」

ストロング「いえ、そのような。では念のため確認を。赤の女王収容所監視隊、集合！」

TVヒーローのように格好よく登場する監視隊。

マイケル「俺よりダンディな男がいるというなら、そいつはきつと何かの間違いだぜ。DJなら俺に任せな。マイケルキャッツ富岡」

クレージー「♪ちよつと一杯のつもりで飲んでくく。お呼びでない？ これまた失礼致しました。無責任とはおいらのことだぜ。クレージーキャッツ植木」

ワイルド「♪マリリン、長い髪をほどこいて。ちよつと古いですって？ そんなのNon,non気にしない。ロックなら私よ。ワイルドキャッツ美奈子」

監視隊「我らネコ派中のネコ派。赤の女王収容所監視隊！」

ストロング「私より派手な登場しましたね。そんなことより収容所の様子は？」

監視隊「完璧」

ストロング「脱獄への対策は？」

監視隊「完璧」

ストロング「息子の帰りを待つ母は？」

監視隊「岸壁」

ストロング「襲撃への対策は？」

監視隊「完璧〜」

ドジソン「今、つまらないギャグを挟みましたね。そうゆうのは嫌いだ」

ストロング「と、とにかくです。我々の管理体制は」

監視隊「完璧〜」

ストロング「でございます」

ドジソン「それでは聞こう。脱獄に対する具体的な対策は？」

ストロング「はい。私たちが24時間交代で監視しております」

ドジソン「で？」

ストロング「は？ ですから」

監視隊「監視しております」

ドジソン「それだけか？」

ストロング「はい」

監視隊「それだけです」

ストロング「ご心配にはおよびません、ドジソン博士。このストロングキャッツが考案しました綿密なる

監視スケジュールは、完璧でございます」

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

イエローサブマリン（おためしサンプル）
スラムの国のアリス

2011年4月14日 初版発行

著 者 貞方祥 © 2011年
発行者 石村寛之
発行所 有限会社レトロインク
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7
電話 0422-49-2903